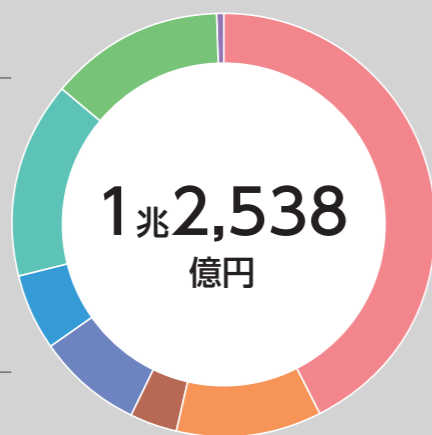


### 事業別売上高 (2023年度上半期)

(注) 右記円グラフの各事業の売上高の合計から、各事業間の内部売上高の消去額319億円を差し引いた金額が、連結売上高の合計額1兆2,538億円となります。なお、各事業別の売上高構成比率は、各事業の売上高の合計をもとに算出しております。



- 鉄鋼アルミ ..... 42.7%
- 素形材 ..... 11.0%
- 溶接 ..... 3.6%
- 機械 ..... 8.0%
- エンジニアリング ..... 5.8%
- 建設機械 ..... 15.0%
- 電力 ..... 13.4%
- その他 ..... 0.4%

### 決算のポイント

鋼材の販売数量は、自動車向けの需要が増加した一方、自動車向け以外の需要が減少したことから、前年同期並となりました。販売価格は価格改善の進展等により、前年同期を上回りました。アルミ板の販売数量は、自動車向けは前年同期並であった一方、需要の調整局面にあるIT・半導体向けの大幅な減少により、前年同期を下回りました。販売価格では価格改善の進展等により、前年同期を上回りました。

素形材の販売数量は、造船向け需要を取り込んだ鋳鍛鋼、一般産業向け需要が回復したチタン、自動車向け需要が回復したサスペンションで前年同期を上回りました。一方、IT・半導体向け需要の減少により、銅板、アルミ鋳鍛で前年同期を下回りました。

油圧ショベルの販売台数は、需要が低迷した中国や、エンジン認証問題により欧州で減少したものの、北米等で増加したこと

から前年同期並となりました。

この結果、当上半期の売上高は、前年同期比841億円増収の1兆2,538億円となり、営業利益は、鉄鋼アルミでの販売数量の減少や在庫評価影響の悪化等があったものの、原料炭価格の下落と販売価格改善の進展に伴う鉄鋼メタルスプレッドの大幅な改善、機械・エンジニアリングでの売上高の増加、電力での神戸発電所4号機の稼働や燃料費調整の時期ずれ影響の改善、売電価格に関する一過性の増益影響(売電価格の指標となる石炭の輸入貿易統計価格と当社購入価格の差異)等により、前年同期比723億円増益の921億円となりました。経常利益は、建設機械における北米でのエンジン認証に関する補償金収入の剥落等の減益要因があったものの、営業利益の増益により、前年同期比497億円増益の916億円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、経常利益の増益に加え、子会社において固定資産の譲渡益を計上したことなどから、前年同期比523億円増益の803億円となりました。

